

韓国中学校「国語」教科書の研究（3）

A Study on Korean Language Textbooks of Junior High School

足立悦男 朴恩実

Etsuo ADACHI

Eun-sil PARK

島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター紀要第3号

平成16年3月

韓国中学校「国語」教科書の研究(3)

A Study on Korean Language Textbooks of Junior High School

足立悦男* 朴恩実**

Etsuo ADACHI

Eun-sil PARK

要 旨

本稿は、韓国国語教科書の基礎研究として、中学校国語教科書の『生活国語』(생활국어)について考察する。韓国の国語教科書は、第7次教育課程(2001年~)で大きく変わり、1年生を例にすると、『国語』(1-1、1-2)、『生活国語』(1-1、1-2)となった。『生活国語』の新設である。日本の国語教科書は、各学年で「国語」1冊なので、「生活国語」という教科書はない。そこで、日本の国語教科書研究を進展させるために、本稿では、韓国の『生活国語』(2001年度版)の紹介と分析・考察をする。『生活国語』(教育人的資源部発行)は3年間、ほぼ同じような構成なので、ここでは1年生の教科書を考察対象とする。なお、参考資料として、『国語科教師用指導書』(教育部 2001年)を使用する。

[キーワード] 第7次教育課程、生活国語、書く、話す・聞く、国語知識

第1章 『生活国語』の構成

韓国の中学校国語教科書「生活国語」(1-1, 1-2)の目次は、次のような構成である。

【生活国語】1-1)

1. 考えと表現 <書く>
 - 1) 創意的な考えと表現
 - 2) 創意的な考えと表現練習
2. 話すと聞く <話す・聞く>
 - 1) 話すと聞くの特性
 - 2) 話すと聞くのいろいろな形
3. 情報の収集 <話す・聞く・書く>
 - 1) 情報収集の方法

【生活国語】1-2)

1. 生活と書く <話す・聞く>
 - 1) 生活の中で書く
 - 2) 映画紹介
2. 単語と形態素 <国語知識>
 - 1) 音節と語節と単語
 - 2) 形態素
3. 判断しながら聞く <聞く・話す>
 - 1) 内容を整理しながら聞く

* 島根大学教育学部国語教育研究室

** 慶尚大学校師範大学外国語教育学部日本語専攻(留学生)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 2) 情報収集の練習 | 2) 内容を判断しながら聞く |
| 4. 国語生活の反省 <国語知識> | 4. 文と主題 <書く> |
| 1) 外来語・隠語・卑俗語・流行語 | 1) 文の主題を決める |
| 2) 国語生活の反省 | 2) 文の主題と統一性 |
| 5. 内容選定 書く | 5. 単語の意味 <国語知識> |
| 1) 内容選定の方法 | 1) 同音異義語 |
| 2) 内容選定の練習 | 2) 多義語 |
| 6. 状況に応じて話す <話す・聞く・国語知識> | 6. いろいろな文 <書く> |
| 1) 状況に応じた話し方 | 1) 記事文と報告文 |
| 2) 状況に応じて話す練習 | 2) 広告文と案内文 |
| 7. 書き直す <書く> | |
| 1) 書き直しの必要性和方法 | |
| 2) 書き直しの練習 | |

以上が、『生活国語』(1-1, 1-2)の目次である。「書く」「話す・聞く」「国語知識」の三領域の教科書である。韓国の中学校「国語」は、この分野を1冊の教科書として編集したことから、この分野を国語教育の中核の1つとして重視したことがわかる。

第2章 「書く」単元の事例と考察

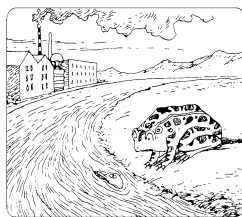
「書く」単元例

『生活国語』の「書く」単元は、『1-1』では「1. 考えと表現(書く)」「3. 情報収集(話す・聞く・書く)」「5. 内容選定(書く)」「7. 書き直す(書く)」。『1-2』では「1. 生活と書く(話す・書く)」「4. 文と主題(書く)」「6. いろいろな文(書く)」である。本章では、その中から、『1-1』の「1. 考えと表現(書く)」を取り上げる。「創意的な考え」の単元だからである。「創意的な考え」は、第7次教育課程の改訂において、重点目標の一つであった。また、中学生になって最初の単元であるから、生活国語の基本的な内容であると考えられる。

「1. 考えと表現(書く)」は、以下のような単元である。単元の全体を紹介したあとで、韓日比較国語教育の観点から、その特徴について考察する。

1) 創意的な考えと表現

「活動1」 次の文を読んで、「創意的に考える」とはどういうことか、話してみよう。



「漫画家の私は『環境汚染』を表すために、最初は、母の蛙が死んだ子供(お玉じゃくし)

をしゃがんで見つめている絵を描いて、川の汚染を表現しようとしたが、編集局長に全然違う意味に思われてしまった。どうしたら主題を効果的に伝えることができるか、いろいろ考えた末に、死んだ子供をしゃがんで見つめている蛙ではなく、立って、死んだお玉じゃくしを抱いている蛙を描いた。こうやって完成した私の絵は多くの人に誉められ、外国の新聞にまで載るようになった。」

このエピソードをふまえて、「創意的な考え」とはということかについて、以下のように述べている。「この話を通じて、皆さんは、一つの作品が完成するまで、アイデアがどうやって作られて、発展していくのかが分かるでしょう。このように創意的に考えて斬新的に表現するためにはどんな努力をすればいいのか?いくつかのいい方法を紹介しよう。まず、言いたいことをはっきりさせること。二つには、開いた心で物事を見ること。三つには、自分の力だけでできないときは人の助言を求めると」と説明している。そして、次のような課題が出される。

1. 創意的な考えと関連した次の質問について話してみよう。

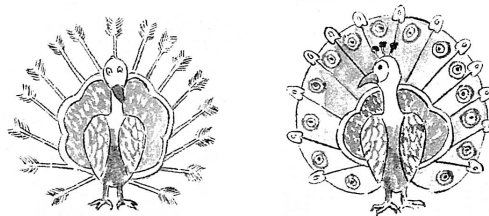
- ① 創意的な考えをして誉められたり、逆に、とんでもないと怒られて無視されたりしたことがあったら話してみよう。
- ② 周りに創意的な考えをよくする人を見つけて、どうしてその人が創意的だと思うかを具体的な例をあげて話してみよう。

2. 創意的な考えを浮かべるために、普段どんな姿勢を持つべきかを考えてみよう。

- ① この文(活動)で提示した方法を整理してみよう。
- ② この他に創意的な考えを育てていくことのできる態度や方法について話してみよう。

「活動2」 「絵と写真を見ながら、新しい多様な観点で考えて表現してみよう。

1. 4人の友達が下の絵にタイトルをつけて、どうしてそんなタイトルをつけたか、その理由を書いている。読んで、質問に答えてみよう。



- ・ミンジ：普通の鳥がはでになりたくて体に矢を刺して孔雀の真似をするが、そうしても孔雀にはなれない。
- ・スヨン：左側の鳥は突然変異だ。
- ・クァンヒ：右側の鳥は美しいが強くはない。左側の鳥は矢に射られてもびくともしない。
- ・ヒジョン：スターの真似をする人たち。

- ① どんなタイトルが絵の主題を一番よく表していると思うか?
- ② 一番独創的な観点でこの絵を見た人は誰か?そしてそう思った理由を言ってみよう。
- ③ 自分がこの絵にタイトルをつけるなら、どういうタイトルをつけるか?そんなタイトルをつけた理由も言ってみよう。

2. 次の写真の中の動物の行動を人に例えて表現してみよう。



①写真の中の動物を見ると、どんな行動を取る人の姿が連想されるか。例のような形式で表現してみよう。

オウム：・有権者に向かって一生懸命演説している政治家 ・歌の練習に夢中の歌手
・泣きながら母を探している坊ちゃん。

写真：ヒョウ：・ゴールをねらう攻撃手 ・さぼっている部下を監視する上司。

写真：ゴリラ：・リストラされて頭をかかえるサラリーマン ・創意的な考えが浮かばない私 ・寒さでしゃべれないホームレス。

②自分の書いたものと友達の書いたものを比べてみよう。そして、どちらの表現がより斬新か、話し合ってみよう。

2) 創意的な考えと表現練習

活動1：例のように空欄の対象を他の対象に例えて表現して、また、そう表現した理由を書いてみよう。

例：制服は体重計である。なぜかと言うと、制服が緩くなると体重が減ったことになるし、制服がきつくなると体重が増えたことがわかるからだ。

①友情は()だ。なぜかと言うと、()からである。

②試験は()だ。なぜかと言うと、()からである。

③コンピュータは()だ。なぜかと言うと、()からである。

活動2：新聞記事に合った斬新なタイトル(見出し)をつけてみよう。

1. 次の新聞記事を読んで、これに合うタイトルをつけてみよう。「図書商品券の使用拡大のために、ファーストフード店の食事代を図書券で支払いができるようにしたが、これは図書商品券の変質をもたらす恐れがある。」

①次のタイトルの中で一番斬新な感じがするのは誰のタイトルか？ その理由を言ってみよう。

・図書商品券が間違っていて使われている。 ・ファーストフード店でも使われている図書商品券。

・本を買うか、ハンバーガーを食べるか。

②みなさんが記者なら、どんなタイトルをつけるか、書いてみよう。

2. 周りで起こったことの中から印象に残っていることを、記事文に簡略に書いてみよう。

そして、読者の目を引き付ける斬新なタイトルをつけてみよう。

活動3：次の話を読んで、主題を効果的に表す方法について考えてみよう。そして、主題を決めて創意的な表現してみよう。

「イタチと戦うために、ネズミたちは投票で大柄のカシラを選んだが、カシラのネズミはカッコウをつけて、鋭くて大きい角を頭につけた。いよいよイタチとの戦いが始まったが、

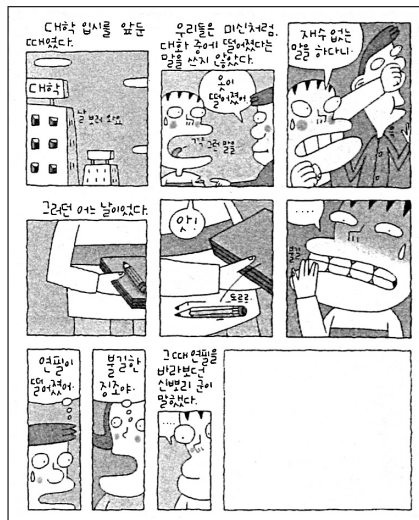
イタチたちの鋭い歯に噛み付かれて、ネズミたちは敗北してしまった。小柄のネズミたちは素早く穴の中に逃げることができたが、大柄のネズミは角が引っかかって穴に入れなくて、イタチたちに捕えられてしまった。」

1. この話は何を語っているのか?
2. 言おうとすることを、この話のような方法で表現すると、どんな面でいいか考えてみよう。
3. 次のいろんな主題の中からひとつを選んで、この話のように動物を登場させてその主題を表現してみよう。

- ①人をいじめると、自分もいじめられる。
- ②今は大変でも、我慢して頑張ると、いい結果が出せる。
- ③一瞬を免れようとする嘘は、もっと大きな苦勞をもたらす。

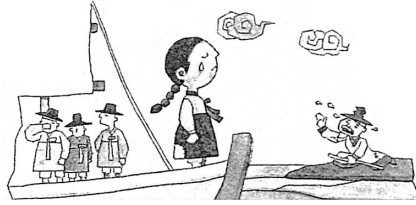
3) 補充・深化

1. 次の対象を例のように新しい観点で理解してみよう。
例：カカシ：農作に利用された人類最初のロボット
・水：
・テレビ：
2. 次の漫画の空欄に当てはまる絵を描いて、せりふも書き込んで完成させてみよう。



3. 次の詩「お父さん」から斬新な表現を見つけてみよう。そして、愛している人を題材にして斬新な詩を書いてみよう。
①この詩から斬新だと思う表現を見つけてみよう。
②愛している人を題材にして、この詩のように斬新な詩を一編書いてみよう。
4. 同じ話であっても読む人によって解釈が違うことがある。「アリとキリギリス」を新しい観点から書き直した文を読んで、「沈清(シムチョン)伝」を新しい観点で書き直してみよう。
①「アリとキリギリス」は、キリギリスを否定的な人物と見る話である。しかし、人によって

は、キリギリスを肯定的に見ることもあるし、アリとキリギリスがお互いに手伝い合うのがいいと思うこともできる。元来の話と新しい観点で書き直した二編の話を比較しながら読んでみよう。



韓国の「書く」単元の特徴

以上が、『生活国語』(1 - 1)の第1単元「考えと表現 書く」のすべてである。「書く」活動が実に周到に準備、展開、整理されている。たいへんよくできた作文単元である。以下、単元の順序に従って、その特徴を明らかにしてみたい。

1) 創意的な考えと表現

「活動1」は、「創意的な考え」とはどのようなものか、定義を考えさせる学習である。著名な漫画家のパク・ジェドン(朴在東)の二枚の漫画と体験談が載せてある。著名な漫画家の作品と体験談によって、「創意的な考え」とはどのようなものか、具体的に考えさせていく。そして、生徒たちの言語生活をふりかえりながら、創意的な考えをもたせようとしている。教材は漫画であるが、生徒たちの興味を引くためだけでなく、日常の言語生活をふりかえる「きっかけ」としての役割がある。

「活動2 - 1」は、クジャクとクジャクをまねて体に矢を背負った奇妙な鳥の2枚の絵が示され、4人の生徒が自分たちの見方を示している。そして、絵の主題、独創的な観点、自分ならどんなタイトルを付けるか、という学習をする。『教師用指導書』によると、①主題をよく表しているのはミンジ、ヒジョンの答え、②独創的なのはクアンヒ、スヨンの答え、③自分で付けるタイトルの例としては、たとえば「骨はあるのに肉がない」「中心さえあればよいわけではない」「私の羽を買って(マスコミを利用して)」などが予想されている。「活動1」と同様に、2枚の絵を教材として、比較して考えることができるようになっている。2枚の鳥の絵もユーモアを誘うような絵で、「創意的な考え」について多面的に考えられるように工夫されている。

「活動2 - 2」は、3匹の動物の顔をクローズアップした写真を教材としていて、人間の行動を連想させる学習である。写真は、口を大きく開けているオウム、獲物をねらっているヒョウ、上目づかいに見ているようなゴリラであり、人間にたとえると何かという学習である。写真の「読み方」の例も生徒を引きつけるように工夫してある。政治家、リストラ、ホームレスなど、社会的な関心をもつような事例となっている。

この単元の最後には、「整理」として、「考えを創意的にするためには、新しい観点と多様な視点から物事をみる習慣、周辺の世界について、関心と好奇心を持って観察する姿勢と深く考える態度を持つべきだ。また、表現を創意的にするためには、対象を他の対象に例えて、新しい観点から表現する練習をしてみるのもいい方法である」と述べてある。この単元で学習した内容が的確に「整理」してある。

2) 創意的な考えと表現練習

「活動1」は、「たとえて表現する」という作文学習である。「制服は体重計だ。なぜかという...」という例題が出してあって、友情、試験、コンピュータの応用問題となっている。『教師用指導書』によると、回答例として、「友情は鏡だ - なぜかという、笑うと笑う」友情はマラソンだ - 長い間たいへんでも、忍耐よく育てていくからだ」②「試験はゴムバンドだ - 近くなると緊張するし、遠くなると緩むからだ」コンピュータは酒だ - はまったらやめられない、いつもしたい(飲みたい)と我を忘れさせるからだ」私たちはコンピュータを脱がす。なぜかと言うと、部品を飾って高く売るからだ」というような、ユーモアをふくんだ回答例が示されている。

「活動2-1」は、新聞記事に斬新なタイトル(見出し)を付ける、という学習である。ファーストフード店で図書券を使えるようにした、という新聞記事に、斬新なタイトルを付けてみるという活動である。実用的な場面設定に工夫がみられる。

「活動2-2」は、身の回りの出来事から取材して、自分で記事文を書く学習である。そして、斬新なタイトルを付けてみよう、とう応用問題である。

「活動3」は、物語文をテキストとして、「主題を効果的に表す方法」の学習である。イタチと戦うために、ネズミたちはあるリーダーを選んだが、カッコウばかり気にするネズミであったためにイタチに捕まってしまった、という教訓的な寓話である。カッコウばかり付けていると失敗する、という教訓である。この寓話に教わって、3つの主題の中から1つを選んで、動物を登場させた寓話を書く、という作文学習である。3つの主題には、中学生にとって大事な教訓が含まれている。寓話を書くことで、一種の道徳教育にもなっている。中学校において創作指導はむずかしい作文とされているが、この活動では、教訓的な主題を動物の世界に置き換えて表すので、生徒にとっては興味をもって書きやすい作文である。ちなみに、指導書の作品例には、②「今は大変でも、我慢して頑張ると、いい結果が出せる」の事例が紹介されている。サナギは自分のことを情けないと思っていた。アリに会うと、体の10倍の荷物を背負って働くアリを羨ましく思っていた。でもサナギは、周りの色と同じになって、くもの巣やガマから身を守る。チョウになり、蜂になって飛べるし、蜜も吸うことがわかった、という作品例が載っている。動物の物語にすることで、作文の主題(教訓)は明確に表現しやすくなる。

3) 補充・深化

1) 2)の単元が終わると、「補充・深化」という単元に進む。「補充・深化」とは、教師用指導書によると、「生徒が自ら自分の学習結果、興味、関心を点検すること。そして、生徒自身の知的水準や興味、関心によって適切なものを選択し、学習する活動」である。教師は「案内し、手助けをするだけである」。「補充・深化」のような単元は日本の教科書には見られない、韓国の教科書の特徴的な単元である。

教科書の手引きには、自己点検として、「今まで創意的に考えて表現する方法について習った。単元学習内容を考えながら次の事項を点検してみよう」とあって、①私は学習活動をするのにあまり難しさを覚えてない。②私は比較的創意的に考える。③先生や友達に斬新な表現をするという評価を受けたことがある。そして、「知っている創意的な考えを浮かべるための方法を書いてみよう」とある。

そして、最初に、「補充・深化では、4つの活動を提示している。1番は、対象を新しい観点から理解する活動であり、2番は、漫画の空欄に入る内容を想像して書き込む活動である。3番は、一編の詩から斬新な表現を探し、それに習って詩を書いてみる活動であり、4番は、「沈清伝」を新しい観点から書き直す活動である。この活動の中で、やりたいのを2つ以上やってみよう、と呼びかけている。その4つの活動から生徒たちは、生徒自身の知的水準や興味、関心によって適切なものを2つ選択して学習する、ということになる。

課題1は、「新しい観点」でものをとらえる学習である。「カカシ：農作に利用された人類最初のロボット」という例があって、水、テレビを「新しい観点からみる」という問題が出されている。指導書によると、「水：人をきれいにする神のせっけん」「テレビ：世の中を全部抱える広い胸。可視圏を無限大にした望遠鏡」のような答えが予想されている。

課題2は、著名な漫画家、パク・クァンスの作品「クァンスのセンガ(考え)」である。漫画の最後が空欄になっていて、「せりふと絵を書き入れる」という活動である。漫画の内容は、大学受験を控えた受験生が主人公で、受験前なので不吉な言葉を避けたいのに、「服が破れる」「えんぴつが落ちた」というセリフが出てくる。指導書によると、空欄の例として「えんぴつが落ちた」に対して「床が抱いた。好き合っている」という絵とせりふの例が紹介されている。

課題3は、「アボジ(お父さん)(李 炭)」という詩が教材である。「お父さん」という詩は、お父さんは広くて静かな海のような。虫メガネをのぞいてみていたらシワが海の波になって押し寄せる、という大胆な比喩の詩である。すぐれた比喩表現の作品であり、比喩を斬新な表現方法として学ぶ学習である。その後で、愛している人を題材に、比喩を使った詩を作る、という活動が指示されている。日本の中学校の教科書には、詩の創作を指示する活動はほとんど見られない。

課題4は、子どもの頃に覚えた①「アリとキリギリス」②「沈清伝」を、「新しい観点で書き直す」という活動である。元来の「アリとキリギリス」の話を紹介したあと、次のような「新しい観点」の例が示されている。新文1：音楽性を磨いてきたキリギリスはレコードを発売し大人気を得たが、アリは働きすぎて病院に通うようになった。新文2：夏中歌ばかり歌って、結局冬になって飢えと寒さで苦しむようになったキリギリスが、アリ家族に助けられた。キリギリスは、冬と次の年の夏に、アリの家族にきれいな歌を歌ってあげて彼らの退屈さと疲れを取ってあげた。

②「沈清(シムチョン)伝」は韓国のもっとも有名な人物伝の一つである。沈清は目の見えない父のために、自分の身を売ってインダン川に身を投げた。が、竜王に助けられた。生まれ返って王妃になった沈清は盲人パーティーで父に会い、父は驚いたあまり目が見えるようになった、という話である。儒教の国、韓国で大事にされている親孝行の物語である。この物語を「新しい観点で書き直す」という作文である。新文「沈清伝」の例としては、自分の身を売ることを決めた翌日、父は白い服(死人)の夢を見た。沈清は隣村の男と結婚し幸せになった。父は自分の目が見えるようになりたくて娘を身売りした。沈清が死ぬのは親不孝、といった観念の例が示されている。有名な話を「書き換える」という創作文の学習である。批評性の芽生えはじめる中学生の年代の特性を生かした作文学習といえる。このような作文単元は日本の教科書にはみられない。

最後に、「この単元を終わって」では、「この単元では、創意的な考えと表現について学習した。個性のある斬新な文を書くためには、まず創意的に考える能力を育てるべきである。固定観念から脱して普段から周りの物事を注意深く見て多様な観点から考える習慣を持つと、創意的に考える力を身に付けることができる。しかし、独特な考えをしななければならないという強迫観念は逆に自由な考えを妨げる恐れがあるので、普段から心を開いて考え、それを文に表現しようとする態度を持つことが必要である」と、しめくくられている。

第1単元「創意的な考えと表現」は、中学校1年の「書く」入門単元であった。入門単元らしく、多彩な展開になるように構成されている。1) 創意的な考えと表現では、「活動1」で創意的な考えとは何か、という定義の学習、「活動2」では新しく多様な観点でものを見ていく学習。2) 創意的な考えと表現練習では、「活動1」は比喻(たとえ)で表現する学習、「活動2」は斬新なタイトルを付ける学習、「活動3」は主題を決めて創意的な作文を書く活動であった。「創意的な作文を書く」ことの段階的な展開がみられ、よく工夫されている。

また、「書く」ことの興味を最大限引き出そうと工夫されている。視覚的な教材が多いのもその一つである。パク・ジェドンの風刺漫画、クジャクとクジャクをまねた鳥の絵、3匹の動物の顔のアップの写真、パク・クァンスのマンガなど、視覚教材の刺激によって「書く」活動を触発するように工夫されている。中学校作文の入門期において重視すべき観点である。

「書く」ことの話題にも特徴がみられる。社会的な話題が多く、環境汚染の風刺漫画、外観だけ真似することの愚かさ、政治家、歌手、リストラされたサラリーマン、ホームレスなど、社会の現実を表す話題、新聞記事にも図書券とファーストフード店を問題にする記事、いじめ、コンピュータ、大学受験など、社会的な話題が多い。中学生という年代の関心をよくとらえた題材選択である。

このあと、一年間で、「情報収集(話す・聞く・書く)」「内容選定(書く)」「書き直す(書く)」、「生活と書く(話す・書く)」「文と主題(書く)」「いろいろな文(書く)」といった作文単元が展開する。生徒の言語生活を多様な観点からみていくことで、「書くこと」の充実が工夫されている。

第3章 「聞く・話す」単元の事例と考察

「聞く・話す」単元例

『生活国語』において、「話す・聞く」単元は、『1 1』では「2 話すと聞く(話す・聞く)」「3 情報収集(話す・聞く・書く)」「6 状況に応じて話す(話す・聞く・国語知識)」。『1-2』では「1 生活と書く(話す・書く)」「3 判断しながら聞く(聞く・話す)」である。「話す・聞く」単元もあれば、「書く」との組み合わせ、「国語知識」との組み合わせなど、多様なパターンがある。「話す・聞く」活動の特徴から、他の領域との組み合わせは自然である。

本章では、その中から、「話す・聞く」単元の例として、『1 2』の「3 判断しながら聞く」を取り上げる。その理由は、日本の国語教育では、表現力、理解力、思考力とともに、判断力は重要な学力と考えられているからである。韓国ではその判断力を、「聞く・話す」領域でどう展開しているか、韓日の比較として興味ぶかいところである。

『生活国語』(1 - 2)の「3.判断しながら聞く」は、以下のような単元である。本章でも、単元の全体を紹介した後で、くわしく考察したい。なお、この単元は、教師の話聞いたあと、「聞く・話す」の活動の指示がある。教師の話は教師用指導書に載っている。

1) 内容を整理しながら聞く

活動1：先生の話聞いて、次の活動してみよう。

「ヨリヤンは、小さい山村である。……………作ったそうである。」

- ①アウラジ川という名前が付くようになった理由は何でしょう。
- ②話し手がヨリヤンについて紹介しているのは何と何でしょう。
- ③メモをとりながら聞いた人とメモをとらないで聞いた人の答えを比較して、その結果について話し合ってみよう。

まとめ：聞く内容を体系的に理解して長く覚えるためには、内容をメモをとりながら聞いたほうがいい。

活動2：出来事の順番に気をつけながら、次の話を聞いてみよう。

「ある田舎の学校で起きたことは……………あたたかかった。」



()



()



()



()

- ①クラスの子供たちはどんなニックネームを得るようになったのか？
- ②絵を見て、話の順番に合うように番号を付けてみよう。

まとめ：昔話、旅行話などを聞くときは、出来事が起きた順序や場所を移動した順番に従って内容をまとめたほうがいい。

活動3：身のまわりの出来事や事件について話を聞くときは、どんな内容に気をつけるべきか調べてみよう。

「ひどい不況にあたった去年末……………温情のためかもしれない。」

- ①話を聞きながら、次のように内容をまとめてみよう。
(誰が・いつ・どこで・何を・どんなふうに・なぜ)
- ②このような話を聞くときに、注意すべきことは何でしょうか。

まとめ：身のまわりで起きる出来事や事件を伝える話を聞くときは、六何原則に従って内容をまとめるとうい。

活動4：次の話は、内容がいくつかに分けられる話である。話を聞きながら内容を整理してみよう。

「口から口に語り継がれている話には……………動物談、笑話、寓話などがある。」

①話を聞きながら、次の空欄に適切な内容を書き込んでみよう。(注：空欄には、説話を伝説などに分け、さらに内容を分類をするように指示してある。)

②このようにいくつに分けられる話は、どんなふうに整理するといいいでしょうか。

まとめ：内容がいくつに分けられる話を聞くときは、話題別に内容をまとめて整理したほうがいい。

2) 内容を判断しながら聞く

活動1：「みなさん、・・・・・・・・・・主人公になる道であります。」

①話を聞きながら、内容を事実と意見に区別してみよう。

例・事実：セジョン大王がハングルを創造したこと。

例・意見：新世紀は創意力の時代である。

②話し手が言おうとする中心内容は何でしょう。

まとめ：人の話を聞くときは、話している内容が事実か意見か区別しながら聞くべきだ。

活動2：次の広告を聞きながら、正確で信用できる情報かどうかを判断してみよう。

「異性とルックスに興味のある・・・・・・・・たった1パーセントの利益もなしで差上げます。」

①話を聞きながら、大げさであったり、事実ではない可能性のある内容を書いてみよう。

②そう思った理由は何か。

③身のまわりでこれと似ている例を探して話してみよう。

まとめ：広告を聞くときはその情報が正確か、偽りや誇張はないかを判断して聞くべきだ。

活動3：班長候補になった友達の話聞いて、この友達の主張に共感できるか判断してみよう。

「私が班長になったら・・・・・・・・・・応援してください。」

①話を聞きながら、主張にあたる内容を書いてみよう。

②この話に出た主張は妥当かどうか判断してみよう。

③この話に共感できるかどうか考えてみよう。共感できないならその理由が何か、ディスカッションしてみよう。

まとめ：主張を聞くときは、その主張が妥当なのか、そうではないのかを判断すべきだ。

活動4：二人の友達の会話を聞きながら、主張と根拠が何かを調べてみよう。

「ミンズ：君たち、無監督試験についてどう思うか・・・・・・・・信頼がそのベースだと思う。」

①ナリとソンヒの主張が何か、その主張を裏付ける根拠は何かを整理してみよう。

②「無監督試験」についての自分の意見を決めて、自分の考えを裏付ける根拠を決めよう。

まとめ：主張する内容を聞くときは、その主張を裏付ける根拠が何か、その根拠が適切かどうかを判断しながら聞くべきだ。

3) 補充・深化

1. 次の話を聞いて、どの犬についての話が空欄に書いてみよう。

「サップサルゲ(犬)は天然記念物であり・・・・・・・・牧場がある。」

①敏速で勇猛で早いことで有名である。②朝鮮半島の東南部の地域に広く生息したという。③目の間が広く、額が目立って、目が凹んでいるように見える。④顔が毛に覆われて

滑稽な印象を与えるが、大胆で強い。⑤鬼神や悪い運を追い出す犬という意味を持っている。⑥北朝鮮では天然記念物に指定されて、専門的に飼われ、今は専門牧場もある。

2. 重要な内容を整理しながら次の話を聞いてみよう。

「昔、大金持ちがいて、彼には娘が三人いた。……このお嫁さんは自分の運でお金持ちになった。」

①三女のお父さんが怒った理由は何でしょう。

②お嫁さんが大変だといって竈かまどに一度も登らなかったなら、どうなっていたでしょう？

③各自で整理した内容をもとにして、この話を漫画に描いてみよう。

3. 次の話を聞きながら、バングジョンとアップジョンを比較しながら整理してみよう。

「パジュから西のほうに4,5里、イムジン河あたりに……南北の鳥を友達にしている。」

4. 友達とペアになって、次のように「話す・聞く」活動をしてみよう。

①話し手と聞き手を決めて、話の過程がよく分かる話題を決めてみよう。（注：コンピュータゲーム、マンガ、制服、夏休みの宿題、などの話題で）

②話し手は話す内容を用意して話してみよう。（話し手……話題……内容）

③聞き手は話を聞きながら、話の内容を順序よく簡略に整理してみよう。

韓国の「聞く・話す」単元の特徴

以上が『生活国語Ⅰ(1-2)』の「判断しながら聞く」単元のすべてである。この単元では、教師用指導書に記載されている「話」のテキストを教師が音読した後で、「判断しながら聞く」という学習をする。日本の国語教科書には全くない、独創的な「話す・聞く」単元である。それだけに単元の構成方法には学ぶことが多い。以下、教師用指導書によりながら活動例を分析する。

1) 内容を整理しながら聞く

「活動1」は、ヨリヤンという山村の話を書いて、「メモをとりながら聞く」学習である。「メモをとらないで聞く」「メモをとりながら聞く」の一方を経験し、比較によって学ぶ学習である。

「活動2」は、教材に4コマ漫画が使われている。ある田舎の中学校で、視学官の査察があった日の出来事である。査察のあった寒い日、理科室の窓ガラスが大きく割れていたが、先生と生徒たちは熱くなって授業に打ち込み、視学官にほめられた、という人情味のある話である。①後で生徒たちに付けられたニックネームは、「窓ガラスを割る子供たち」、②絵に順番を付けることで、「出来事が起きた順序や順番に従ってきまとめる」学習である。漫画の使用は韓国の特徴である。

「活動3」は、ある貧しいおばあさんに2年前から米が届けられていた。テレビ局の取材で送り主はある中小企業の経営者であったが、当たり前のことをしていって、取材を断った、という話である。この話を聞ききながら、「六何原則(5W1H)で話を整理する、という学習である。

「活動4」は、口承文芸を教材とした、内容を分類する学習である。教師の話は、神話、伝説、説話など口承文芸についてのくわしい話で、話を聞きながらその内容によって分類し表を

完成させる、という学習である。この学習を通して生徒たちは、話題や内容を整理しながら分類することを学ぶ。

2) 内容を判断しながら聞く

「活動1」は、話の中で事実と意見を区別して聞く、という学習である。教材はハングルを創造した世宗大王の話である。新しい世紀は創造力の時代であり、ハングルは最高のソフトウェアである。「世宗プライス(世宗大王の業績を讃えて国連に創設された賞)のような祖先のすばらしい創造力を見習い、君たちも新しい世紀の主人公になろう、という話である。この話の中で、事実は世宗大王がハングルを作ったこと、意見は新世紀は創意力の時代になること、話の中心内容は創意的な人になろう、である。この学習を通して、事実と意見を分けて聞くことを学習する。

「活動2」は、情報の正確さをどう判断して聞くか、という学習である。教材には、化粧品のCMが使用されている。教師の話は、「にきび」にきく薬のCMで、つややかな肌、輝く顔を願うなら、このチャンスに「シルビダン(シルクのような肌)」をお勧めする、というCMである。このCMから、①「大げさであったり、事実ではない可能性のある内容を書いてみよう」では、世界最高の美男美女に生まれ変わる、1%の利益もなしに、など。②「そう思った理由は何か」では、根拠が示されてない、事実でない、など。③「身の回りでこれと似ている例を探して」では、テレビショッピングのダイエット商品のCMが挙げられている。この学習を通して、情報の正確さ、偽りや誇張がないか、判断して聞くことを学ぶ。中学生の関心をとらえた教材化といえる。

「活動3」は、他人の主張を聞くときの注意点について学ぶ学習である。班長に立候補した生徒の主張が教材である。その生徒の主張は、教室環境をよくします、私一人で残ってやりません。掃除当番をなくします、私一人でやり、学校での自習をなくします、家でできるようにします。体育を2倍にします、班長にしたらわかります、という内容である。その主張は実現できないもの、妥当性を欠くものばかりで、このような「判断して聞く」活動を通して、主張の妥当性を判断しながら聞くことの大事さを学ぶことになる。

「活動4」は、主張を聞くときは、裏付ける根拠は何かを判断して聞く、という学習である。「無監督試験」をどう思うか、というミンスの問いに対して、ナリは不正が増える、という反対の意見、ソンヒは自分の良心を守るために努力すべきだ、という賛成の意見。①は二人の主張を裏付ける根拠を整理する、②は自分の意見を決めて裏付ける根拠を考える、という学習である。この学習を通して、根拠が適切かどうかを判断しながら聞くことを学習する。

3) 補充・深化

1) 2) の単元が終わると、「補充・深化」の単元に進む。まず、自分が生活の中で実践していることをチェックして、この単元で学習したことの自己点検をする。①私は重要な内容をメモしながら聞くことができる(いつも・時々・全然)。②私は一定した順番に従って内容を整理しながら聞くことができる(いつも・時々・全然)。③私は聞く内容の事実と意見を区別できる(いつも・時々・全然)。④私は内容の信頼性と妥当性を判断しながら聞き取ることができる(いつも・時々・全然)。「補充・深化」の単元は、このように自己点検、自己評価の活動から始められる。そして、自己点検、自己評価をふまえて、次のような「補充・深化」の活

動例が示されている。その中から自分に合った活動を選んで学習する。「補充・深化」単元は、日本でも最近少しずつ取り入れられるようになった、選択型の学習法である。

課題1は、2種類の犬（サップサル犬とブンサン犬）の6枚の絵があって、どちらの犬のどこかを考えて書く。この後、指導書によると、「天然記念物第368号で、韓国固有の特産の犬でサブサリとも呼ばれている」といった応用問題で学習する。

課題2の教材は、父親の三人の娘の話である。長女と次女はお父さんのおかげで幸福になったと思っているが、三女は自分の運で幸福になったと思っている。三女は、貧しい炭屋に嫁いでよく働き、竈に登って炭の中に金のような石を見つけてお金持ちになった、という話である。この話を聞いた後の三つの設問があり、指導書には、設問の答えの例として①お世辞を言わないから。②炭の中の金を見つけれず金持ちになれなかった、とある。そして③あらすじを漫画に書く活動がある。「話を聞きながら話の内容を把握したり、重要な内容をメモしたりする」補充活動である。

課題3は、バングジョンとアップジョンのあずま屋の話を、比較して聞く、という学習である。世宗大王の時代の遺跡で、バングジョンは、ファンヒ（精練潔白の士）の住んでいたイムジン河のほとりの亭。アップジョンは、今のソウル近郊にあったハンミョフェ（権力者）の亭で、今は見る影もない。二つの対照的なあずま屋の話を聞き分ける学習である。

課題4は、友人とペアになって、交互に話し手・聞き手を体験する活動である。教師用指導書には、話題の例として、コンピュータゲーム、漫画、制服、夏休みの宿題など、生徒の関心をよびそうなものが挙げられている。課題3と4は、「聞く内容を表に整理したり、重要な内容をメモしたりする深化した学習」である。全体的に、自学・自習できるように工夫された課題である。

この単元の最後には、「この単元を終えて」というまとめの文章がある。「この単元では、内容を整理しながら聞くことと、判断しながら聞くことについて学習した。いろんな話を聞きながら、重要な内容をメモしたり、一定した順番に内容を整理したりしたし、聞く内容を事実と意見と区別して信頼性と妥当性を判断したりもした。私たちは日常生活でたくさんのお話や情報を聞いて暮らしている。でも、たくさんのお話を全部覚えるわけにはいかないし、これらの情報が全部必要なわけでもない。だから、必要な情報を絞るべきで、内容の信頼性と妥当性を判断して自分のものにするべきである。この単元で学習したことを日常生活で習慣化して、すてきな聞き手になろう」としめくられている。韓国の「話す・聞く」ことへの教育目標が「判断して聞く力の育成」にあることがよくわかる「まとめ」である。

以上が、「聞く・話す」単元の事例「3.判断しながら聞く」の全体像である。この単元には次のような特徴がある。

一つには、「話す・聞く」学習のための共通テキストがある、ということである。教師用指導書に「話す・聞く」テキストが掲載されている。日本の教科書にはない仕組みである。

二つには、話題の選定に工夫がみられることである。「話す・聞く」の学習は「何を」「どう」話す・聞くかの学習である。「何を」が話題であり、どのような話題を選ぶかがよく研究されている。この単元では、査察授業、班長選挙、無監督試験は中学校生活の話題、ヨリヤン村、説話、昔話、セジョン大王、サップサル犬とブンサン犬などは韓国文化の話題、不況、CMな

どは社会問題の話題である。生徒の興味・関心を引くような話題がバランスよく配置されていることがわかる。

三つには、すべての「活動」例が活動を通して学ぶ、体験型の学習になっていることである。大きくは「1)整理しながら聞く、2)内容を判断しながら聞く、3)補充・深化」となっているが、各単元の活動例に二つと同じものがない。多様な活動が考案され、そしてバランスよく配置されている。

四つには、「活動」の後に必ず「まとめ」が付いていることである。たとえば、「聞く内容を体系的に理解して長く覚えるためには内容をメモをとりながら聞いたほうがいい」というような「まとめ」がすべての活動の終わりに付いている。このような「まとめ」は、学習の目標に対する評価でもある。「問題提示(目標)-活動-まとめ」という、目標と評価の一体化の構造になっていることである。いずれの点においても、日本の国語教科書にとって学ぶことが多い。

第4章 「国語知識」の事例と考察

「国語知識」単元例

『生活国語』の「国語知識」単元は、『1-1』では「4 国語生活の反省」6 状況に応じて話す、『1-2』では「2 単語と形態素」「5 単語の意味」である。本章では、その中から『1-1』の「4 国語生活の反省」を取り上げる。「国語生活の反省」の「反省」の観点、中学生の言語生活をふりかえる中学校らしい単元であることと、日本の国語教育にも導入すべき課題と思われるからである。本章でも、単元の全体を紹介した後で、分析・考察を行う。

1) 外来語、隠語、俚俗語、流行語

活動1：次の文を読んで、トバギ語(注：純粋なハングル)について考えてみよう。

「村の名前のトバギ語は音もきれいなハングルで、実際使われているのに、なぜか、それを全部漢字語で変えた名前が公式的に使用されている。中国の制度を受け入れはじめた新羅時代から始まった漢字地名は、植民地時代に入って本格的に使われ始める。」

①村の名前をトバギ語で呼ぶときと漢字語で呼ぶとき、感じの違いがあるか考えてみよう。

②自分の村の名前をトバギ語に変えてみよう。

③人名、商品名の中から、トバギ語できている良い名前を探してみよう。

まとめ：外国語とは違って外来語はわが国の言葉のように思われ、他の国から来た言葉ということをおぼろげに忘れることが多い。しかし、外来語も根本的には他の国の言葉なので、やさしくてきれいな純粋ハングルがあったら、これを生かして使おうとする心構えが必要である。

活動2：次の文を読んで、隠語について考えてみよう。

「青少年がよく使っている「ワンタ(いじめ)」という言葉はもともと青少年たちの隠語であったが、ワンタ現象が社会問題になるにつれて一般人にも知られて隠語としての性格を喪失した。後輩、部下を意味する「ザンチェンイ」、よく遊ぶし、勉強もできる生徒を意

味する「ナルラリ」も広く知られて隠語としての機能を失った。」

- ①友達同士で使っている隠語があったらいくつか書いてみて、その言葉がどんな意味なのか話し合ってみよう。
- ②友達が自分の分からない隠語で話しているとき、どんな気持ちになるかを想像してみよう。

まとめ：隠語は自分の集団の秘密を維持するために作られた言葉で、閉鎖的な性格を持つ。

隠語は、集団メンバーには結束力を与えるが、他の人を疎外させる短所がある。

活動3：次の文を読んで、卑俗語について考えてみよう。

文1「イ・ガンスの小説の一節：こいつめ、犬みたいな奴だ、てめえはブタみたいな奴だ。」

文2「キム・チャンワンの歌：（市場で道に迷った子どもを叱って）母 - こいつめ、どこに行ってたんだ。子ども - 私を本気で心配してくれるお母さんが好き。」

- ①文1と文2で、卑俗語にアンダーラインを引いてみよう。
- ②文1で、話者がどんな気持ちでこんなことを言っているのかを考えてみよう。
- ③文2で、お母さんは私に対してどんな気持ちかを話してみよう。
- ④文1と文2に出た卑俗語の感じを比べてみよう。
- ⑤卑俗語を習慣的に使っている友達を見ると、どんな気分になるかを書いてみよう。

まとめ：卑俗語は、卑しくて荒い言葉で、普通、相手を軽蔑する気持ちで使う。場合によっては、卑俗語を使って近い関係である人への親しみを表現することもある。しかし、卑俗語を習慣的に使ったり、使い間違えたりする場合、相手に不快感を与えたり、教養のない人だと思われやすい。

活動4：次の文を読んで、流行語について考えてみよう。

「ある社会を理解する一番やさしい方法は、その時の一番敏感な問題を知らせる流行語を調べてみることである。1997年に一番流行した言葉は名誉退職の略語である「名退」である。芸能界では「今日はなんとなく……」（注：ソ・セウォンのギャグ）といった、単純な言葉遊びが多い。マスコミが流行させた断然の圧巻は、「姫病」（注：自分を美しいと思っている女の子）である。」

- ①この文に出る1997年の流行語の中で、今も流行している言葉があるか探してみよう。
- ②最近、友達の間で一番流行している言葉を書いてみよう。
- ③最近の流行語の中で、社会的な状況を反映したものがあるか調べてみよう。
- ④芸能人の作った流行語を習慣的にまねする友達を見ると、どんな気持ちになるか話してみよう。

まとめ：流行語はある一時に人々によって広く使われる言葉で、一定した時間が経てばほとんど消える。流行語はだいたいその時代像を反映して「時代の鏡」ともいう。しかし、最近、芸能人が作り出した言葉遊びのような言葉が人気を得て流行することが多い。こんな言葉に影響されないように言語使用に慎重になるべきである。

2) 国語生活の反省

活動1：今朝から今まで友達と使ってきた言葉を思い浮かべながら、国語生活を反省してみよう。

- ①今日、自分が言った言葉の中で隠語、卑俗語、流行語があったか考えて書いてみよう。
- ②どうしてそんな言葉を使ったか、その理由とそのときの状況を書いてみよう。
- ③友達が言った言葉の中で、隠語、卑俗語、流行語があったか考えて書いてみよう。
- ④友達がどうしてそんな言葉を使ったか、その理由とそのときの状況を考えてみよう。

活動2：下の空欄に、最近流行している歌の歌詞を書いてみよう。

題名... () 歌詞... () 正しくないと思うところを指摘する... ()

3) 補充・深化

今まで国語生活を反省する内容について学習したことを考えながら、次の事項を点検してみよう。

自己点検

- ①私たちが外国語や外来語をあまりにもよく使うときに起こる問題点を書いてみよう。
- ②自分の国語生活で直すべき点を探して書いてみよう。

「補充・深化」では、前に勉強した内容を土台にしてわが国の言葉と関連した3つの学習活動を提示した。1番は、チャットルームで使う言葉を分析して批判する活動であり、2番は、日常生活で不用意に使われている外国語や外来語を見つけて、わが国の言葉に変える活動である。3番は、記事文を読んで、自分の立場を整理する活動であり、この中から各自のやってみたいものを選んで活動してみよう。

- ①情報通信時代に入ってから青少年にチャットルームの利用が増えている。チャットルーム通信語の例をあげて、間違っているものがあつたら、正しく直してみよう。また、その結果を学校のホームページやコンピュータ通信掲示板にのせて、人々がどんな反応を見せるか試してみよう。
- ②日常生活で必要でないのに使われている外国語や外来語を見つけて、適当なわが国の言葉に変えてみよう。
- ③次の記事文を読んで、わが国でも、「新フランス語法」のような法律ができるなら、これに賛成するか、それとも反対するか。立場を決めてその理由を発表してみよう。

「フランス議会は、フランス語の保護のための新しいフランス語法を可決した。コマーシャル業界や学校、官公庁などではそれぞれの用語を英語ではないフランス語を使わなければならない、ということである。今回の措置の特徴は、外来語の使用を制限する具体的な法案を設けて、これに違反したときは処罰されることである。」

韓国の「国語知識」単元の特徴

以上、韓国の「国語知識」単元の例として、「国語生活の反省」という単元をみてきた。1) は外来語、隠語、卑俗語、流行語、2) 国語生活の反省、3) 補充・深化という構成であった。1) で基本的な学習をし、2) では身の回りの国語生活をふりかえり、3) 補充・深化では自己点検をふまえて応用問題の選択学習をする、という構成である。小単元の役割がきわめて明確である。単元構成の方法は、日本の教科書で言語生活単元を構成する上で参考になる。では、この単元には、どのような特徴がみられるであろうか。

まず、韓国の国語教育もまた、氾濫する外来語、隠語、卑語に悩まされている、という事実

である。この単元の初めに、次のような写真が載っている。外来語、隠語、卑語などの入り交じった、韓国の現状を一枚の写真で表している。日本の現状も同様であろう。この現実に危機意識をもっていることから設定された単元と思われる。

次に、この単元の「活動1」が純粋なハングルとしてのトバギ語から始まっていることである。国語生活の反省の前に、教師用指導書によると、地名のタルゴルマウル村、人名のイ・ウトウム、などの例が挙げられている。現代の言語生活の問題点だけを反省する、ということだけでなく、韓国の伝統文化としてのトバギ語を再評価することで、言語を文化史の観点からもみていこうとする姿勢がうかがえる。日本の生活言語の学習論にはない観点である。

また、流行語、隠語、卑語の事例として、同時代の生きた言語を使用していること。「活動2」の隠語では、生徒たちの使う「ワンタ(いじめ)」が挙げられている。いじめ問題は韓国でも深刻な教育問題になっており、「ワンタ」は「ワン(一番)タドリダ(いじめる)」の合成語で流行語の代表格である。ほかに教師用指導書には、コンデ(先生)、ポデ(かっこいい)という例を挙げている。「活動3」の卑俗語では、「こいつめ」の二つの使い方(侮蔑と親愛)が取り上げられている。「活動4」の流行語の「姫病」も、中学生の現代の言語生活に取材した事例なので、国語生活の反省にリアリティが生まれる。日本の教科書では卑語、卑俗語を扱うことは少ない。

また、流行語、隠語、卑語などを、感覚的にどうか、という言語感覚面での反省の活動が入れていること。教師用指導書によると、たとえば「活動1」①「村の名前をトバギ語で呼ぶ」と、意味がよくわかる、親しみがある。「活動2」隠語の②「友達が自分の分からない隠語で話していると」、ひとりぼっちで悲しい、ワンタされた気持ち。「活動3」卑俗語の②「卑属語を習慣的に使っている友達を見ると」、家のしつけが疑われる、大人の前では無礼になる。④「芸能人の作った流行語を習慣的にまねする友達を見ると」、ユーモアがある、めだちたがりや、おもしろい、などの事例があげられている。言語生活を生徒自身どう感じているか、言語感覚面からの学習になっている。

そして、「まとめ」の充実である。トバギ語、隠語、卑俗語、流行語についての教科書編者の考え方がしっかりと表現されている。しかも、流行現象に対して単に批判するのではなく、長所と短所の二面性を提示している。隠語、卑俗語、流行語を好む生徒の言語生活の実態を認めた上で、その問題点、課題が明確に提示されている。この点も、日本の言語生活教育の学ぶべきことである。

以上、韓国の中学校の『生活国語』から、「聞く・話す」「書く」「国語知識」の代表的な単元を取り上げて考察してきた。日本の中学校教科書は「国語」1冊なので、『生活国語』は日本にはない教科書である。では、どうしてこのような教科書が生まれたのであろうか。

韓国の国語科教育課程の変遷をみると、第1次(1955年～)、第2次(1963年～)は経験・生活中心の国語教育であり、話す・聞く・読む・書くという領域であった。第3次(1973年～)は生活中心・学問中心、第4次(1981年～)は学問中心で、表現・理解、言語・文学という領域であった。第5次(1987年～)は領域・機能を強調し、第6次(1992年～)は領域・機能を強調した。そして、今回の第7次(2001年～)の改訂となった。韓国の国語教育は国語科の

イデンティティを、国語学・国文学におくか、話す・聞く・書くの言語生活におくか、という二つの軸をめぐって模索してきた歴史といえる。その結果、第7次教育課程において、『国語』(読む)と『生活国語』(聞く・話す・書く・国語知識)の2冊になっていった。

第7次国語教科書の特徴として、教師用指導書には、以下の点が挙げられている。1)版形と外見の便宜性と現代的感覚の追求、2)下位領域(読む・書く・聞く・話す)の特性を考慮した教科書の分冊、3)生徒の学習動機の誘発、4)生徒の活動中心の教科書、5)生徒の創意性を強調する教科書、6)結果より過程を指導する教科書、7)生徒のレベルに応じて学習できる教科書、8)自己点検を通じてメタ認知の機能を伸張する、9)知識、機能、態度をまとめる教科書、10)学習を通して生徒の国語意識を覚醒する教科書。そういうねらいをもった画期的な教科書であったが、『生活国語』の代表的な単元を考察してみて、そのほとんどの項目が実現されていることがわかる。

今回の研究では、教師用指導書を多く使用したが、韓国では教師用指導書の役割が大きい。そして、第7次国語教師用指導書の編纂は、以下のような目的をもっていた。編纂の方向として、1)教科書の内容を案内する、2)授業に使える資料を中心に、3)過程中心の授業に考慮する、4)多様な指導方法を提示する、5)単元ごとに評価の基準、方法、評価例を提示する。また、指導書の構成については、1)単元設定の理由、2)単元構成の方向、3)全学年の学習内容と関連させる、4)教授=学習のプラン、5)指導上の留意点、6)参考資料のように構成されている。このように、韓国の教師用指導書は、国語教科書の指導内容として大きな機能をもっていることもわかる。日本の場合、教師用指導書はまだ教師のための参考資料という性格であり、その機能を見直す必要があると思われる。